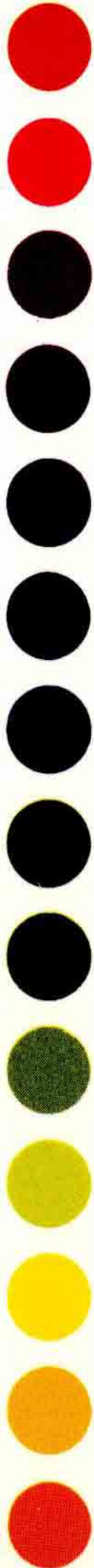


論文の

レトリック

澤田昭夫

わかりやすいまとめ方



澤田昭夫（さわだ あきお）

1928年ワシントン生まれ。1951年東京大学西洋史学科卒業。コーネル大学修士。ボン大学文学博士。近代イギリス史、ヨーロッパ史専攻。南山大学教授を経て、現在筑波大学歴史・人類学系教授。編・著書に『原典による歴史学の歩み』『ユートピア——歴史・文学・社会思想』『論文の書き方』など多数がある。



講談社学術文庫

定価 640 円

論文のレトリック

澤田昭夫

昭和58年6月10日 第1刷発行

昭和59年7月25日 第3刷発行

発行者 山本康雄

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112

電話・東京(03)945-1111(大代表)

振替・東京8-3930

装 幀 蟹江征治

レイアウト 志賀紀子

印 刷 株式会社廣済堂

製 本 株式会社国宝社

© Akio Sawada 1983

Printed in Japan

落丁本・乱丁本は、小社書籍製作部宛にお送りください。送料小社負担にてお取替えします。

ISBN4-06-158604-1 (0)

(術E)

論文の レトリック

澤田昭夫

●●●●●●●●●●●●●●●●
わかりやすいまとめ方

『論文のレトリック』——わかりやすいまとめ方—— 目次より

● よい論文とは

● だめな論文試験

● だめな『論文の書き方』参考書

● よい口述試験、だめな口述試験

● 答案の書き方

● 問題の見つけ方、問の切り出し方

● 論文の種類

● 論文の構成・配置

● 命題

● 歴史論文

● 方

● の作り方

● の感覚

● からよい論文へ

● 書くための読み方

● 比較読書法と研究カード

● ノートのとり方

● ブック・リポートと書評論文

● 業務報告はどう書くか

● 創造性とは、創造性ある論文とは何か

● 難解な文章、やさしい文章

● 注の哲学と注のつけ方

● 文献表はなぜ、どう作るか

● 標題のつけ方

● 論文の書き方の点検表

● 日本人とレトリック

● なぜ日本の学者は解る論文が書けないか

定価640円

ISBN4-06-158604-1 C0100 ¥640E (0)

序

大論文であれ小論文であれ、よい論文、すっきりした論文、わかる論文、国際的にも通じる論文はどうしたら書けるか。そういう問いに答えようというのが本書です。

これは同様な意図で書かれた『論文の書き方』（講談社学術文庫No.153）の姉妹篇としますが、あれとはべつな、独立したものです。『論文の書き方』の刊行後、大学ルチュア・センターで、論文や報告書を書かねばならない学生や社会人の实际ーズに触れているうちに「何が説明不足だったか」、「何が脱落していたか」あめて解ってきた点を書き抜いて論じたのが本書です。敷衍したという意味でのがあるので姉妹篇といえましょう。こちらでは詳説していないのであちらを参て頂くと便利な場合には、『論文の書き方』の関連箇所の章やページをあげてお

きました。

本書のスタイルも多少違っています。『論文の書き方』はかなり体系的でしたが、こちらはさほど体系的ではなく、もつとインフォーマルで、どの章を先に読んで下さつても結構です。どの章もだいたいそれぞれ独立しているからです。また、『論文の書き方』のほうは学生や研究者のニーズ中心になりましたが、こちらは一方ではそういうニーズを多少深く掘り下げて考えながら、他方ではもつと一般社会人のニーズを考えています。

『論文の書き方』とさまざまに違うところはあるものの、いくつかの基本的視点は同じです。まずは、論文書きというのは「文」*verba*の形もさることながら、なによりも「論」*res*の内容に関わるもので、文章作法の細かい戦術よりも内容構造の大局的戦略が大切だという視点です。「論文の書き方」という類の書物は無数に出ておりますが、あいかわらずその大部分はテニヲハ的文章論か、でき上った論文の体裁説明です。⁽²⁾文章も大切です。でき上りの仕様も大切です。たとえば最近邦訳の出たトゥラビ안의『英語論文の書き方』*A Manual for Writers*は研究者必携の書です。⁽³⁾しかしこれはあくまで論文様式典範 *Manual of Style*であつて「論文の書き方」

How to Write a Research Paper 教本ではありません。論文論はなによりも、ことがらの内容に立ち入った構造的論文構成の戦略論であり、でき上った形よりもでき上らせるまでのプロセスに関するものであるはずだ、というのが相変らぬ第一の視点です。

第二は、論文書きはレトリックの問題だという視点。その意味はまず、(一)いわゆる文章作法が修辭（エロキユーシヨ）に関する戦術であるのに対し、構造的論文書きの戦略とはインヴェンション（アイヴンション）、デイスポジション（ディスポジシヨ）、(4) 構想と配置の戦略だということです。つぎに、(二)構想、配置を中心に論文論を展開すると、それは問答論（エロテマティク）erotematic になる、いかに問を考え出し、いかにそれに答えるかという問答論になるということ——これは本書でとくに強調した点。さらに、(三)レトリックとしての論文論は、話す、聴く、書く、読むの四機能を統一的に考え、しかも口頭レトリックがレトリックの基本だから、そこから出発するのが文字のレトリック、論文書きの早道であり、問答上手は論文上手だと見ます。(四)問答論としてのレトリックという立場からは、人文科学の論文、社会科学の論文、自然科学の論文、技術の報告、医学の報告、経営の報告というような区別はさほど大切でなく、論文は論文であるかぎりすべて一定の共通構造をもつ。以上四

つがレトリックとしての論文論の主張しゅちやうです。

第三の視点は、日本人が学問、外交、政治、経済、技術ぎじゆつの分野で世界的に競争きやうそう、協力きやうりやくして行くためにはどうしても、このレトリックとしての論文書き技能ぎくのうを体得たいとくすべきだという政策的視し点てんです。それと関連かんれんして指摘してきできるのは、レトリックに長ずれば論文書きだけでなく外国語にも強くなる、レトリックがだめだと日本語を用いてさえも説得せつとく力りよくをもつて語ること書くこともできず、日本語のレトリックに弱ければ外国語のレトリックに強くなることもできないという事実です。

日本は単一農耕民族社会たんいつのうこうみんぞくしゃかいだったから以心伝心いしんでんしんで話が通じる、だからレトリックはしよせん日本人に向かないという議論がありますが、これは本書でくわしく申しあげるように、全く根拠こんきょのないナンセンスであります。人間はアリストテレスが『政治学』でいったように本来レトリカルな動物、話し語る動物、論争動物ろんそうどうぶつ *zoön logi-*
kon であります。教育、とくに明治以来の教育方法がレトリカルな技能ぎくのうの発達を抑おさえてきましたが、日本人でも練習さえすれば弁論家オラートル *orator* になれます。ローマ人でも練習しなければだんまり屋になるでしょうし、現に論文の書けないアメリカ人学生もいれば、わからぬ論文を書くフランス人大学だいがく者しやもいます。⁽⁵⁾

第四に、本書は『論文の書き方』と同じように、科学方法論やレトリックの理論的問題に関わりながらも、純粋な理論書ではなく、論文や報告をどうまとめるかについての実用書です。このことは戦前の名著、戸坂潤の『科学方法論』あるいは戦後の名著、バークの『動機のレトリック』と比べて頂ければ明らかになります。たとえていえば、本書はこれらの純粋理論書と「入試・入社論文試験対策」的な純粋実用書の中間を行く、ヘクスターの「歴史のレトリック」に近い、理論的実用書として書かれたものです。⁽⁶⁾

注(1) ただし、第六章、第七章、第八章、第九章と第十二章、第十三章と第二十二章、第二十三章はそれぞれ続けて読んで下さったほうが便利です。時間のない方は、さしあたり第一章、第十一章、第十四章を読んで頂ければ本書の要はつかめるでしょう。

(2) 少数の例外としては木下是雄『理科系の作文技術』中公新書、昭和五六年、斉藤孝『学術論文の技法』日本エディタースクール出版部、昭和五二年、高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書、昭和五四年、などが拙著の他にある。

(3) Tourabian (米国ではトゥレービアン)・高橋作太郎訳、研究社、一九八〇年。

(4) レトリックにおける構想と配置については『論文の書き方』の第十三章、そのほか第一章、第六章も参照。

(5) アメリカではだめなのが多い公立高校の卒業生のなかには論文の書き方はもちろん、本の読み方すら知らぬ者が少なくない。わからない大論文の好例はフランスの「新しい歴史」『アナル・グループ』の大長老F・ブodel Braudelの大著『地中海とフィリップ二世時代の地中海世界』*La Méditerranée et le monde méditerranéen à l'époque de Philippe II*である。眼もくらむような壮大な規模と博学と名文で特徴づけられる作品ではあるが、フィリップ二世時代の地中海世界について要するに何をいおうとしているのかわからない。詳しくは拙稿「More about maps than chaps——ブodelの地史的構造史批判——」酒井忠夫先生古稀祝賀記念の会編『歴史における民衆と文化』国書刊行会、昭和五七年、九一五—九三一ページを参照。

(6) 『科学方法論』岩波書店、昭和三年。K. Burke, *A Rhetoric of Motives*, Univ. of California Press, 1950。これの姉妹篇 *A Grammar of Motives* は『動機の文法』として森常治氏により邦訳された(晶文社、昭和五七年)。J. H. Hexter, "The Rhetoric of History", *Doing History*, London, 1971, pp.15—76.

昭和五十八年一月十五日

桜村にて

澤田昭夫

目次

序	3
第一章　よい論文とは	17
——日本の学者の書く論文は解らない——	
第二章　だめな論文試験	22
第三章　だめな「論文の書き方」参考書	30
第四章　よい口述試験、だめな口述試験	40
——口述試験のやり方、受け方——	
第五章　答案の書き方	51

第六章	問題の見つけ方、問の切り出し方	58
-----	-----------------	----

第七章	論文の種類	64
-----	-------	----

——人文系と社会科学系、文科系と

理科系？——

第八章	論文の構成・配置	74
-----	----------	----

——問の種類との対応——

第九章	歴史学の問と命題	84
-----	----------	----

——仮説と事実、詩と真実——

第十章	問の歴史と歴史論文	97
-----	-----------	----

——フランス革命とは？ イギリス革命

とは？——

第十一章	文段 パラグラフ のまとめ方	108
------	-------------------------------	-----

第十二章	アウトラインの作り方……………	127
第十三章	分類と定義の感覚……………	146
第十四章	だめな論文からよい論文へ……………	156
	——小論文の構造的添削——	
第十五章	書くための読み方……………	168
	——いかに速く、構造的に読むか——	
第十六章	比較読書法と研究カード……………	178
第十七章	ノートのとり方……………	188
第十八章	ブック・リポートと書評論文……………	197
第十九章	業務報告 ^{リポート} はどう書くか……………	203
第二十章	創造性とは、創造性ある論文とは何か……………	215

第二十一章	難解な文章、やさしい文章……………	231
第二十二章	注の哲学と注のつけ方……………	247
第二十三章	文献表はなぜ、どう作るか……………	262
第二十四章	標題のつけ方……………	268
第二十五章	論文の書き方の要 ^{チエツク・リスト} 点検表……………	271
第二十六章	日本人とレトリック……………	278
第二十七章	なぜ日本の学者は解る論文が書けないか ——日本の英語教育のために——	298
付 録(一)	サッチャーの「日英両国の友好と協力」……………	317
付 録(二)	文献表例……………	324
後 記	……………	330

図表

第十一章

1 論文の言語学的構造(a).....110

2 論文の言語学的構造(b).....110

3 文段の構造(a).....112

4 文段の構造(b).....113

5 題目文(TS).....115

6 文段の統一と連関.....121

第十二章
7 落書きアウトライン「創造性」.....131

8 見出しアウトライン「代替エネルギー」.....132

9 箱型アウトライン(BO)、文段アウトライン(PO).....134

10 正式アウトライン(FO).....135

11 FOの実例.....137

第十三章
12 定義と分類(a).....153

13 定義と分類(b).....154

論文のレトリック——わかりやすいまとめ方——